

古人のなりわいを今にとどめる 紺屋土佐屋——。江戸時代の息吹きが甦ります。



■主屋

主屋は、安永9年(1780)頃の建築であると推定され、ドマミセの商家形式の町家を復原しました。当時は、このドマミセに染壺が据えられ、職人が生糸や布を染めていました。



■土蔵一階

土佐屋に関する収藏品等を展示しています。



■染工場二階

当時は、染色した紺糸を乾燥させる場所として使用していたと考えられます。藍染めの工程を学べるような展示を施しました。



■二階座敷

階下の通りをのぞみ、ゆっくりと落ち着ける空間としました。



■土蔵二階

土佐屋の収藏品を中心に展示し、土佐屋の歴史を学べるようにしました。また一般に開放し、個展等も行なえるギャラリーとしても使用出来る多目的な空間としました。